

全島的な捕獲の戦略について

1. 経緯

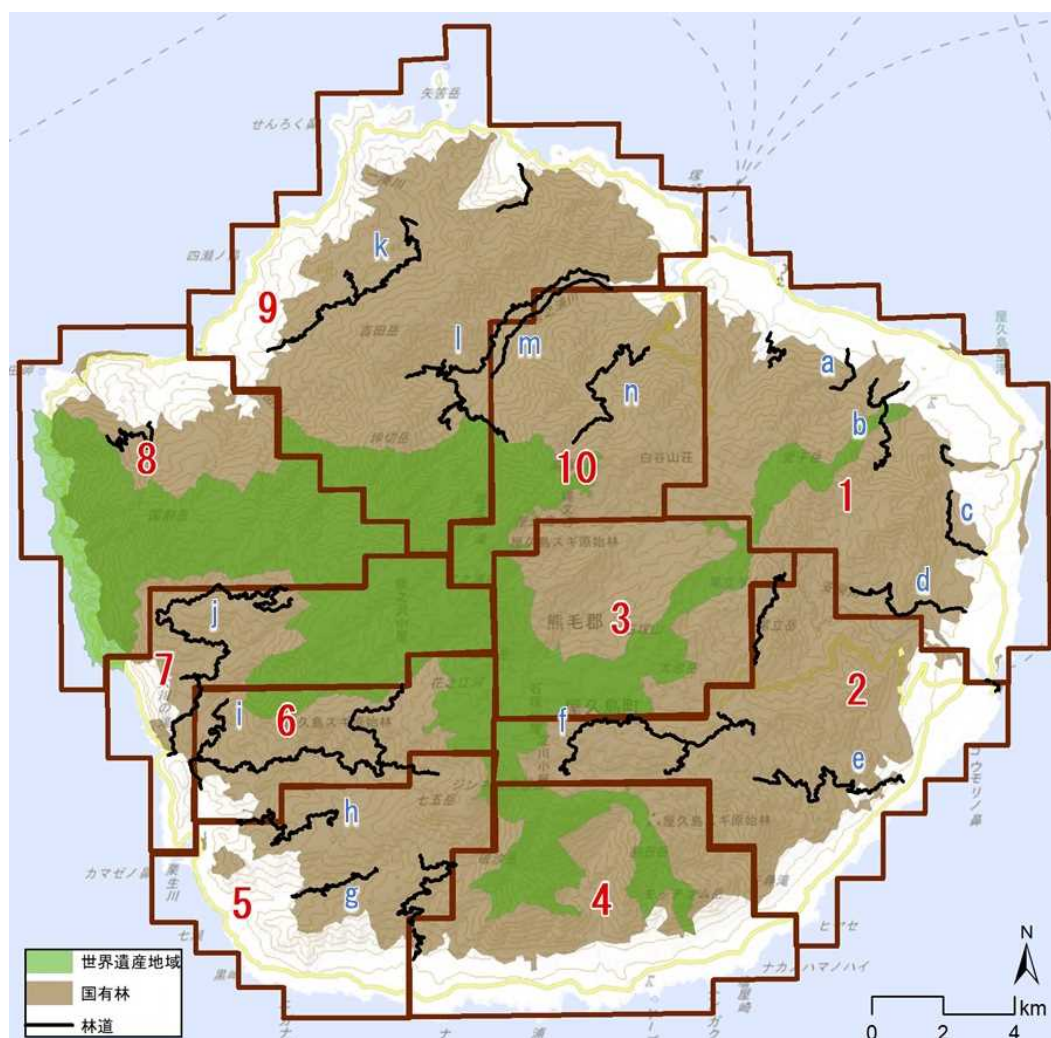
この度、ヤクシカ・ワーキンググループ構成機関全てで計画捕獲（試験捕獲含む）を実施してから5年が経過したことから、捕獲実施場所等の振り返りを行い、全島的に捕獲を進める上での検討を行う。

2. 検証

計画捕獲は林道を中心に行われていることから、以下の通り島内の林道の位置を明示し、過去5年（平成28年～令和2年）における捕獲状況と密度分布の推移を照合し、今後捕獲を進める箇所について検証を行った。

3. 今後の捕獲戦略について

過去5年の結果から、捕獲に注力した林道周辺は生息密度が下がっていると思われる。また、吸い出し効果も否定できないことから、個体数密度が高い地域やその周辺では引き続き捕獲を進めるとともに、これまでの捕獲により捕獲効率が低下した箇所においては別の手法で捕獲を進める、これまで捕獲に入っていない林道において捕獲の実行を検討するなど、これまでの実績を踏まえつつ、今後の捕獲場所や手法等を選定する。

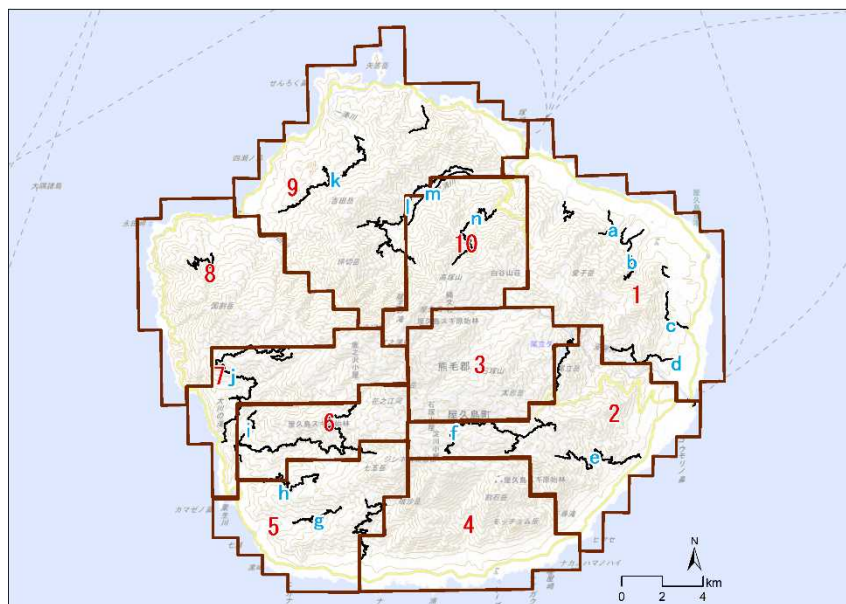


《林道の名称（捕獲が行われている箇所を抽出）》

- a. 梶川林道、b. 小瀬田林道、c. 船行林道、d. 鍋山林道、e. 中瀬川林道、f. 安房林道、g. 中間林道、
h. 小楊枝林道栗生支線、i. 小楊枝林道24支線、j. 大川林道、k. 一湊林道、l. 宮之浦林道、m. 神之川林道、n. 白谷林道

○林道における捕獲状況と、糞塊密度および捕獲状況の推移

林道位置図



○林道位置図

- 林道：国有林内の林道。
- 河川界区分：河川を基準に河川界を 1～10 までに区分した。

○平成 28 年～令和 2 年までの林道における捕獲状況及び糞塊・捕獲状況の推移

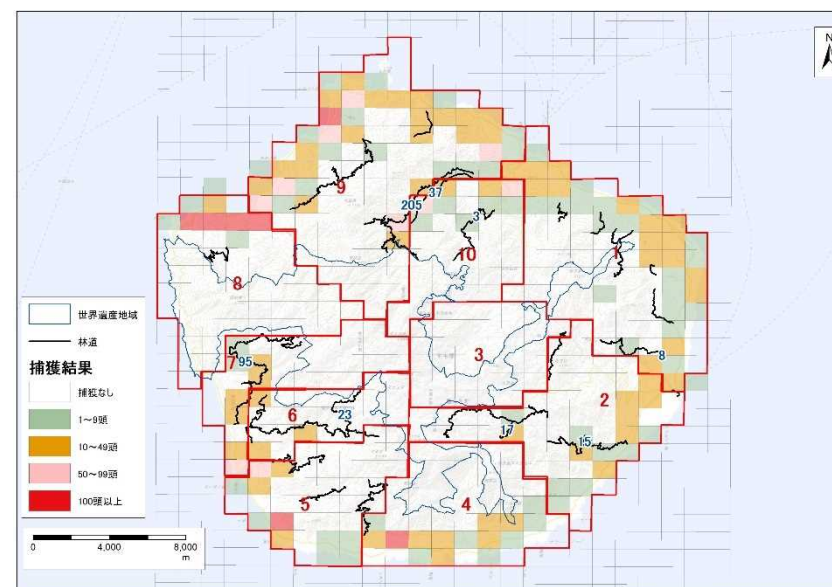
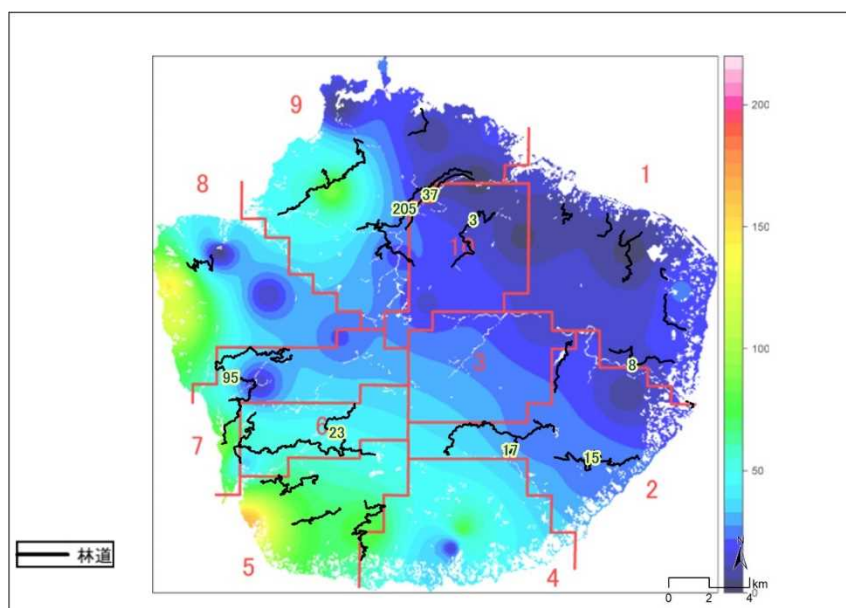
各年度の林道における捕獲頭数を生息密度分布（鹿児島県から提供）及びメッシュごとの捕獲頭数の分布図上に図示。

図中の数値は、河川界区分の番号を赤色、各林道における該年度の捕獲頭数を青色で図示した。

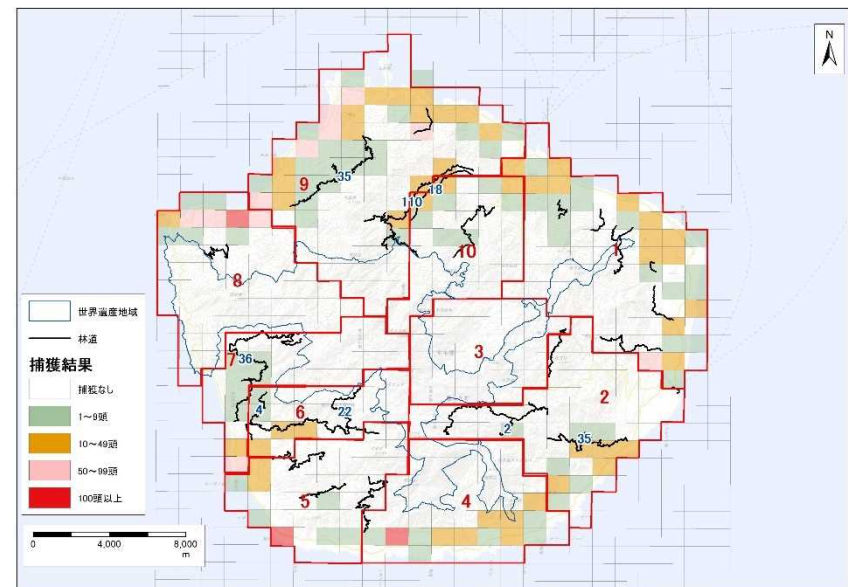
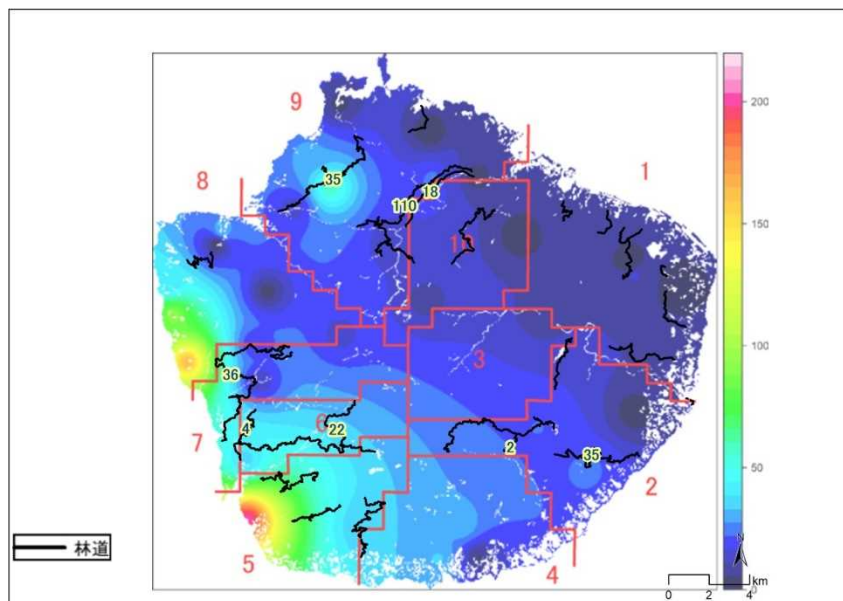
《林道位置図 林道の名称（捕獲が行われている箇所を抽出）》

- a. 梶川林道、b. 小瀬田林道、c. 船行林道、d. 鍋山林道、e. 中瀬川林道、f. 安房林道、g. 中間林道、h. 小楊枝林道栗生支線、i. 小楊枝林道 24 支線、j. 大川林道、k. 一湊林道、l. 宮之浦林道、m. 神之川林道、n. 白谷林道

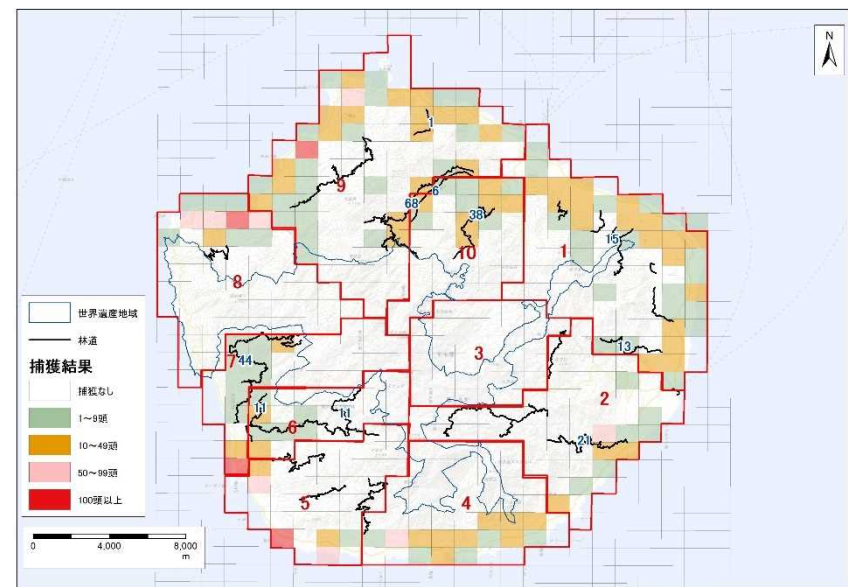
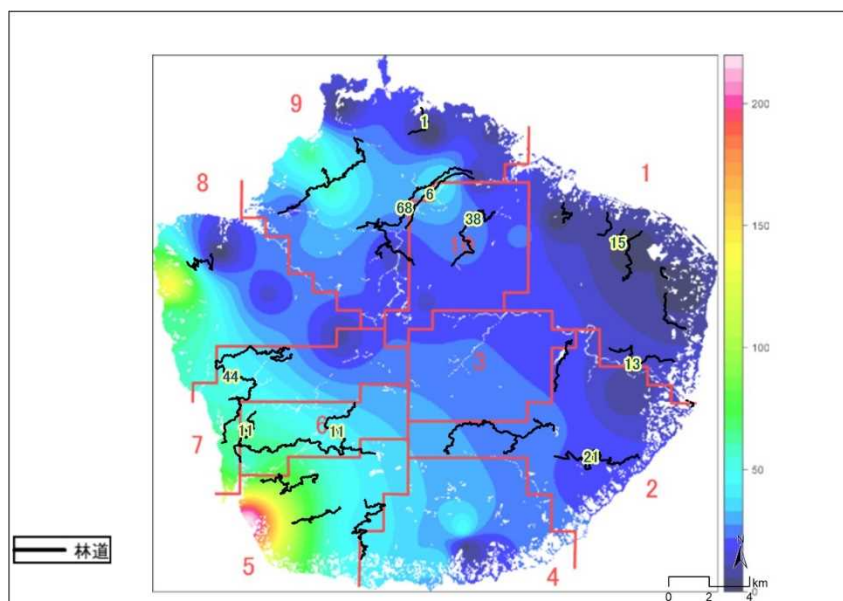
平成 28 年



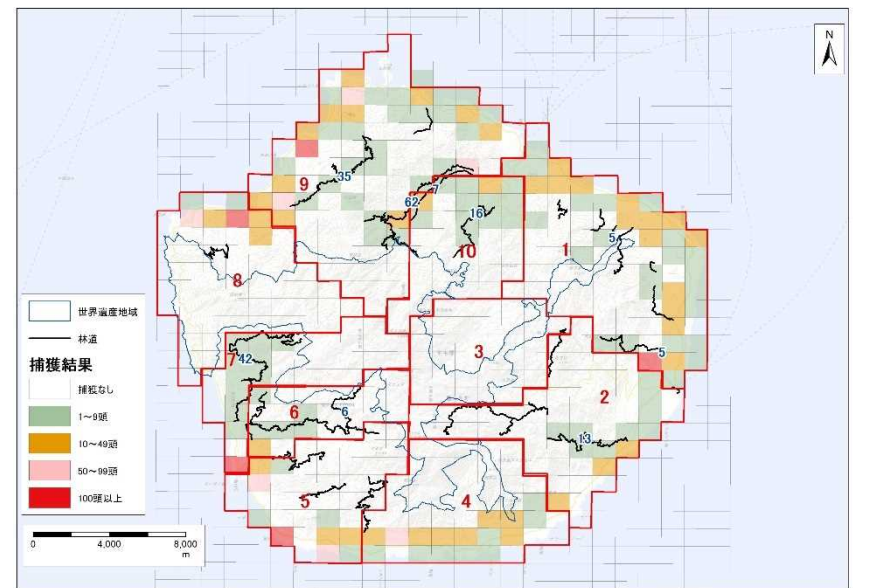
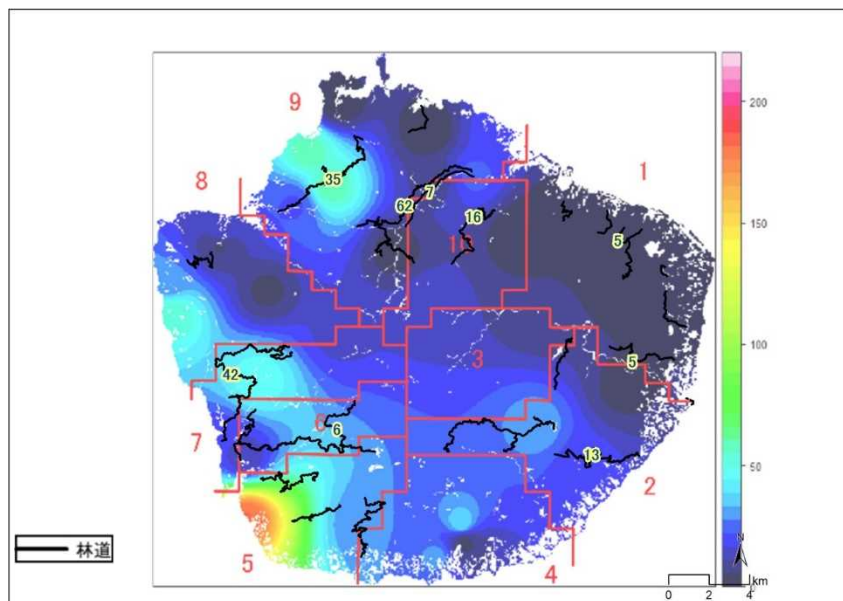
平成
29
年



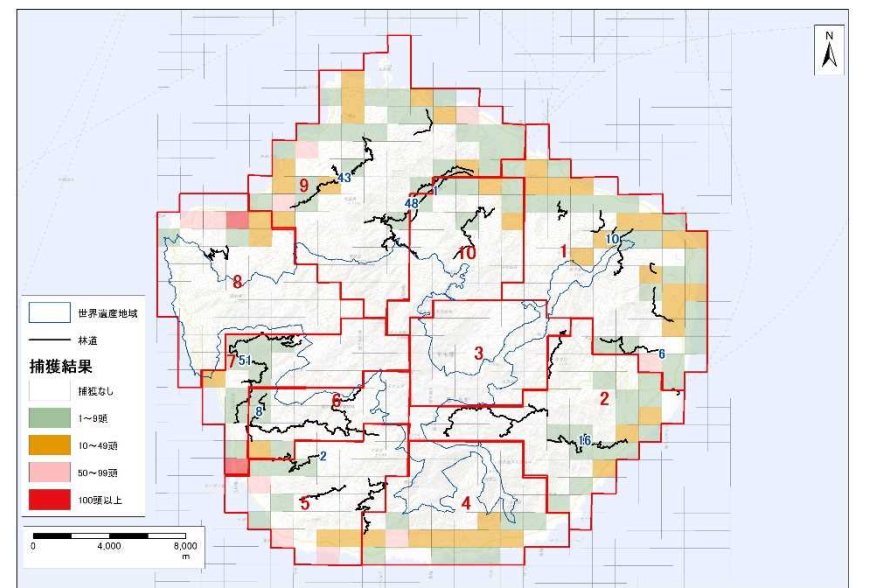
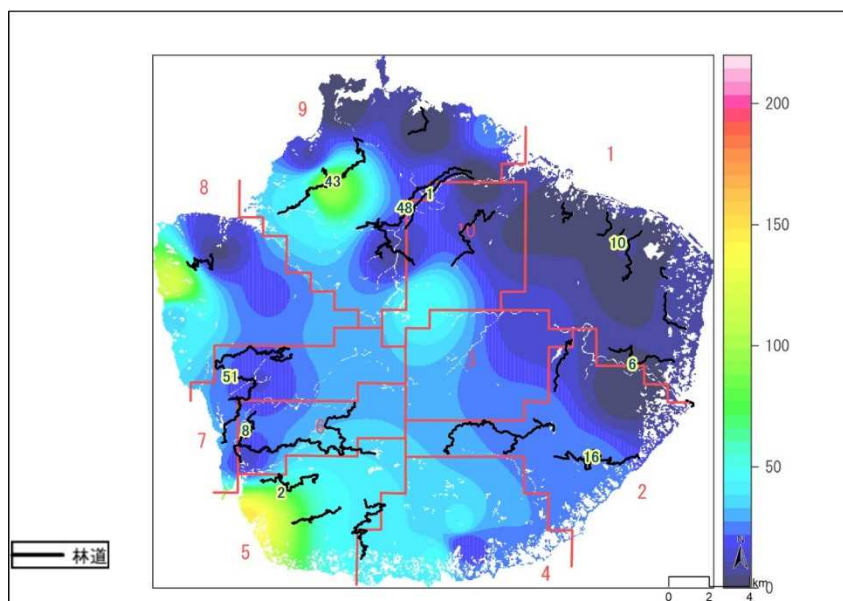
平成
30
年

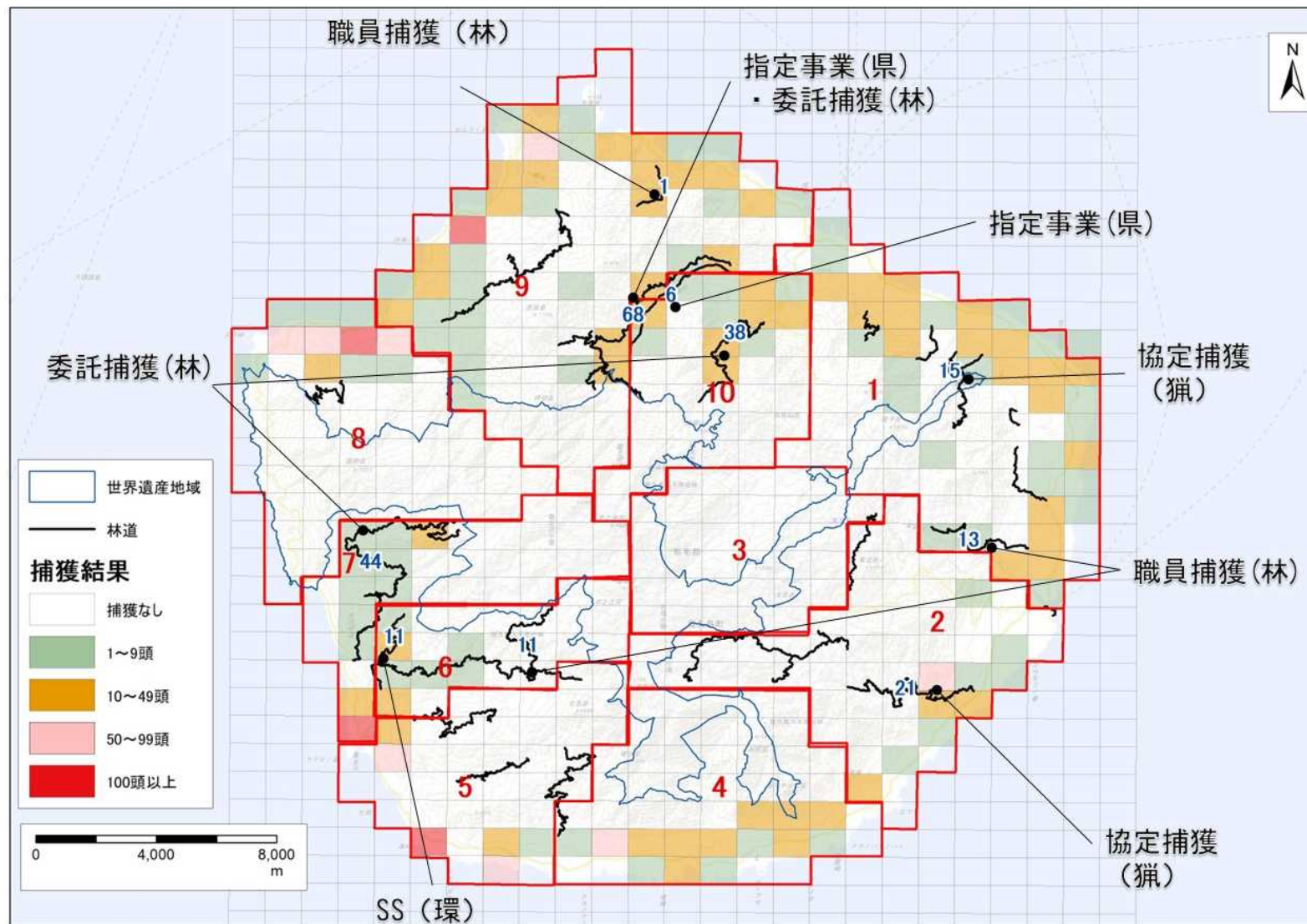


令和元年



令和2年

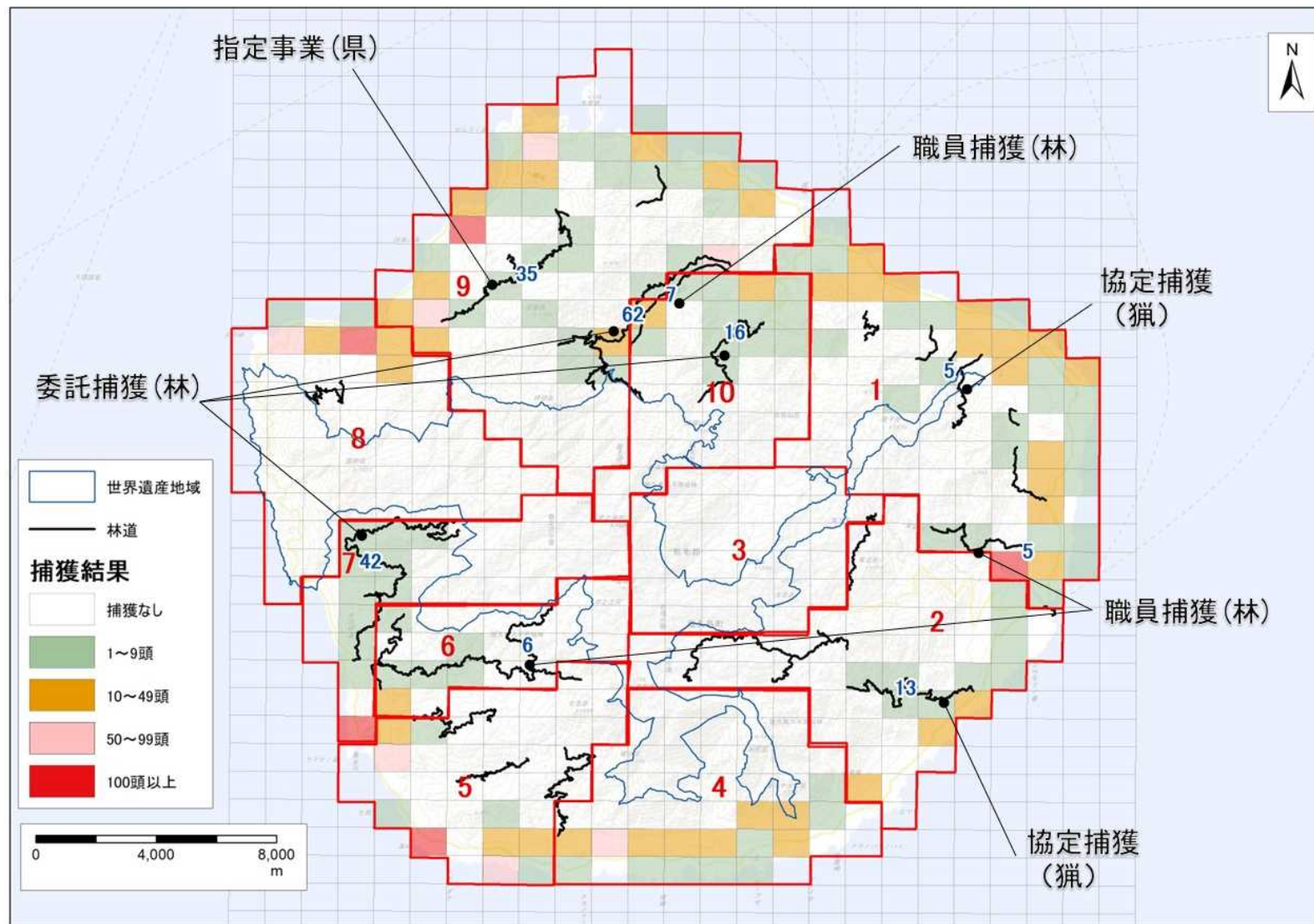




注) 指定事業：指定管理鳥獣捕獲等事業、SS：シャープシューティング

() 内は実施主体。環：環境省、林：林野庁、県：鹿児島県、猟：上屋久猟友会又は屋久町猟友会
捕獲手法について、「委託捕獲」「職員捕獲」「指定事業」「協定捕獲」はわな、「SS」は銃器捕獲

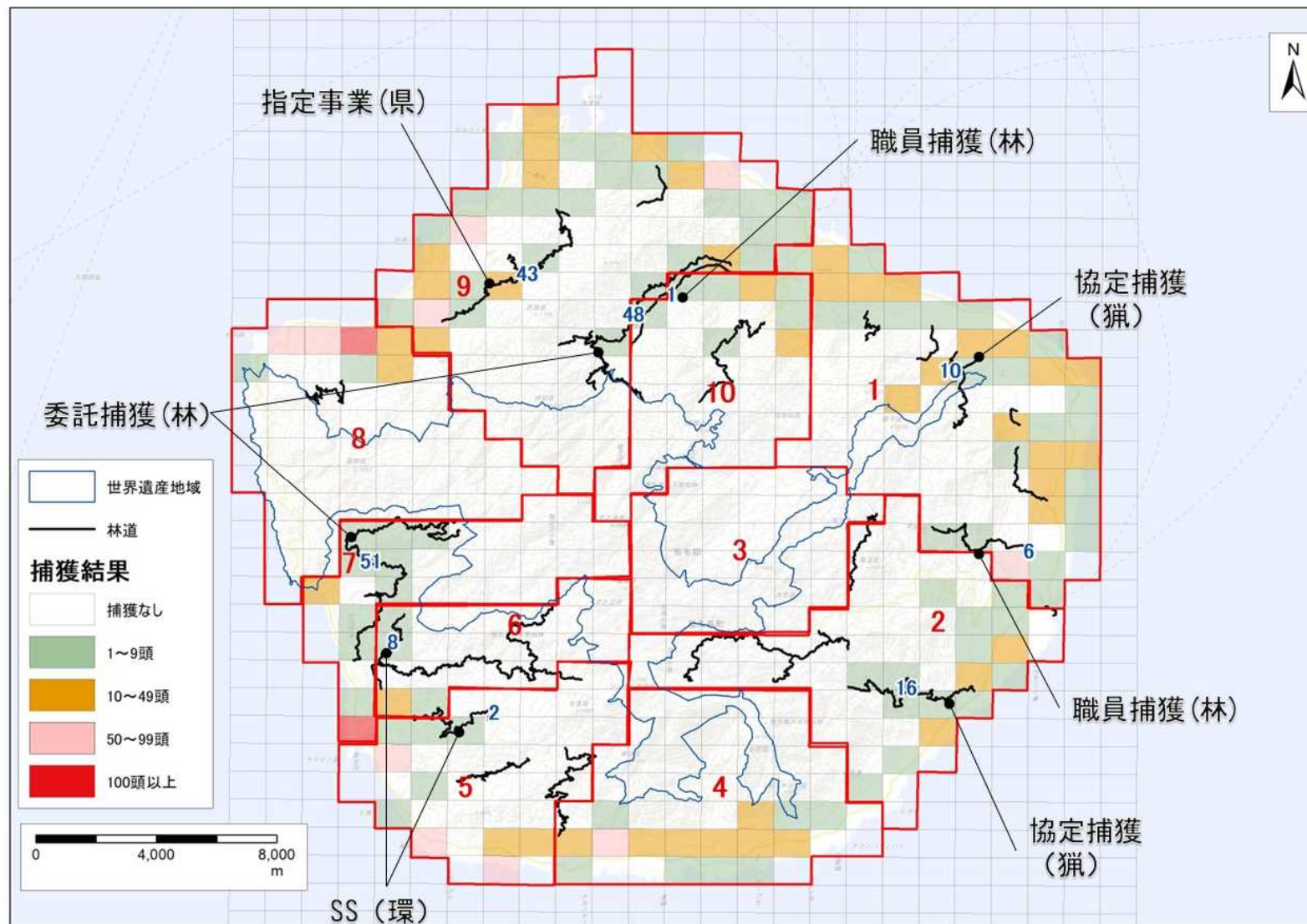
○令和元年度 林道別捕獲手法



注) 指定事業：指定管理鳥獣捕獲等事業、SS：シャープシューティング

()内は実施主体。環：環境省、林：林野庁、県：鹿児島県、猟：上屋久猟友会又は屋久町猟友会
捕獲手法について、「委託捕獲」「職員捕獲」「指定事業」「協定捕獲」はわな、「SS」は銃器捕獲

○令和2年度 林道別捕獲手法



注) 指定事業：指定管理鳥獣捕獲等事業、SS：シャープシューティング

()内は実施主体。環：環境省、林：林野庁、県：鹿児島県、猟：上屋久猟友会又は屋久町猟友会
捕獲手法について、「委託捕獲」「職員捕獲」「指定事業」「協定捕獲」はわな、「SS」は銃器捕獲